第 105 回記念全国高校ラグビーフットボール大会

【佐賀工】昨年の雪辱ならず２回戦で惜敗

▸昨年（令和7年）暮れの 12 月 27 日に東大阪花園ラグビー場で開幕した第 105 回全国高校ラグビーフットボール大会に、佐賀工業高校は 44 年連続、54 回目の出場を果たしました。

▸今回の佐賀工チームはシード校（8校選出）として選抜され、12月 30 日の2回戦から出場し、大会初日に大会史上最高点の 137 点を挙げて1回戦を悠雄と勝ち上がった、昨年準優勝校の東海大大阪仰星高と対戦しました。実は、東海大大阪仰星高とは昨年も2回戦で対戦し、残り 10 分近くで逆転（10：14）された、言わば因縁尽の対戦相手です。

▸今大会は昨年の試合と殆ど変わらない試合運びでした。試合開始から終始ゴール真近まで何回も攻め込む優位な展開でしたが、中々トライが決まらず、相手の反則で得たPK2本をSO吉浦選手が見事に決めて6点を先取したままで、後半も残り5分を切るまでに至り、ここで我々応援者は何とか昨年の借りが返せると信じていました。

▸然し、此処で油断があったのか、相手が自陣営から蹴ったボールが 22 mラインのゴールポスト近くまで転がり、此処で最後のFW陣の我慢比べを展開。また応援席は手を組みジッと目を瞑って勝利を願うシーンが続きました。そして、我慢も試合終了2分前で限界に達し、相手がトライ！･･･続くゴールも決まって逆転負けを喫しました。

“くやしい！　悔しい！　「6対7」の1点差の逆転負け！！„

“なんども！　何度も！　トライのチャンスがあったのに･･･„

“たった１本のトライ が勝負を分けてしまいました！！„

以上。　　〔記事・写真提供〕 佐賀工業高校同窓会関西支部広報担当

↑“勝ち„を信じて応援する佐工応援席

↑試合開始前に戦い方を再確認する

↑何度もFW陣はスクラムで攻込む･･･

↑相手のFW陣は冷静だったなあ？

↑相手の最初で最後のトライがゴールポールの下とは？信じられない！

←〔激戦を戦った選手達〕→
涙ぐんで試合後の報告会に臨みました。 また来年は2度の雪辱を晴らして欲しい。